

第3回北広島市スポーツ推進審議会 会議録

日 時	令和元年7月23日(火) 18:30~20:30
会 場	会議室
出席委員	侘美靖委員(会長)、寺田清隆委員(副会長)、佐藤鶴代美委員、御幸保宏委員、河上愛理子委員
欠席委員	谷口博之委員、工藤祐香子委員、碓井琴音委員
市出席者	【社会教育課】吉田課長、大西主査、遠藤主任、上井主任、坂下主事
オブザーバー	【笹川スポーツ財団】熊谷哲

1. 開会

○「委員の過半数が出席していることから、審議会が成立していること」を確認した。

○会長あいさつ

2. 議事

①前回の振り返りについて

(事務局より議論の内容について説明)

②先進地視察の報告について

(事務局より各地の概要等を説明)

◆A委員：鎌ヶ谷市の取り組みは承知したが、鎌ヶ谷市民にとって北海道日本ハムファイターズはどのような存在か。受け入れられているのか。

●事務局：千葉県全域が千葉ロッテマリーンズの本拠地。そのようななか、鎌ヶ谷市にファイターズの2軍ファームが誘致されてから20年以上が経過し、最近になっての球団や市の取り組み、新鎌ヶ谷駅や鎌ヶ谷市役所などでのファイターズに係る掲示物やグッズの展開などから、地元を受け入れられているように感じられた。

◆A委員：公共団体としての自治体が、行政として一私企業に肩入れすることは良いことなのか。どこまで許されるのか。

●事務局：特定企業の利益拡大を図るということではなく、まちづくりを共に担っていくパートナーとしてWIN-WINの関係を築いていくということだと理解している。そういった意味においては、互いに協力することに特段の制約はないと理解している。

◆A委員：個別の調査地の報告もそうだが、この調査全体として意図したところはどこか。

●事務局：地域に置いてスポーツの振興を図っていくためには、資金調達も含めて民間による主体的な取り組みや事業展開が不可欠であり、それらと行政との密な連携が求められる時代。そうした認識の下、プロチームの本拠地となっている自治体などにおける特徴的な取り組みや工夫、基本的な考え方などに力点を置いて調査にあたった。

◆A委員：千葉県はテニス合宿がさかんと聞いている。合宿向けにホテルやテニスコートが整備されているほか、首都圏という利点があるから盛んなのか。大都市圏からの距離の問題など、合宿誘致を推進するのであれば検討すべきところがあるのではないか。

●事務局：地理的条件の他に、合宿先に強いチームがあるから、という理由もあるのではない

第3回北広島市スポーツ推進審議会 会議録

かと思われる。

- 事務局：成田空港の存在も見過ごせないのではないか。鹿島アントラーズのホームタウンである鹿行地域で組織されたアントラーズDMOでは、海外からの合宿の誘致に強みを発揮している。

③（仮称）北広島市スポーツ振興計画（案）のテーマ・施策等について

- ◆A委員：eスポーツ等の普及促進の検討ではなく、「アーバンスポーツ・eスポーツ等の普及の検討」に修正してはどうか。
- 事務局：修正したい。
- ◆A委員：新領域への挑戦のカテゴリーに「食育」の視点を入れてはどうか。アスリート食の提供というのも一つの観点であるし、食育を通じて地産地消を促進すること、質を伴ったおいしい体験をさせていくということも重要ではないか。
- 事務局：検討したい。
- ◆A委員：スポーツのまちづくりではなく、スポーツによるまちづくり、の表現のほうがよいのではないか。
- 事務局：検討したい。
- ◆A委員：合宿誘致の推進については、「スポーツ合宿をできるまちにしていく」という方向性でよいのではないか。
- 事務局：今後の民間投資の部分にも注視し、使えるものは使っていきながら、そのような方向性で検討していきたい。
- 事務局：北広島市には、市の規模に比べてスポーツコンテンツが豊富であることは疑いない。例えば、ゴルフが熱いまち（根田うのさん、小祝さくらさん）、走りやすいまち（道都大学の駅伝など）など、そうした資源を前面に打ち出しながら、北広島市の進む道はこの道でよいのだ、ここでアクセルを踏んでいくんだ、という決意を込めた計画としていきたい。

④今後のスケジュールについて

3. その他

- 事務局より次回開催日のお知らせ

10月31日（木）18：30～ 市役所3階3D会議室にて行われる。

4. 閉会